

④災害教訓伝承パネル展示

市町村等で行われている防災啓発イベントと連動して、過去の災害に対する周知を図るパネル展における注意点、手順は以下の通りである。

災害教訓伝承パネル展示の実例 資料編 7-4 参照

- ・ 短時間で大勢の人に内容を伝えるための工夫（パネルの見せ方、会場レイアウトなど）。
- ・ 参加者の興味を引くには、災害の写真などを多く掲示する必要がある。
- ・ パネルの内容としては、過去の災害概要や災害に関する伝説・昔話、災害体験談、防災知識を身に付けることの出来るような内容を検討する。
- ・ 過去に災害体験をしている参加者が多いような場合は、過去の災害写真などを多く用い昔の経験を思い出してもらい、ヒアリングするような場を設けるなどして訴求効果を高める。
- ・ 主催者との連携を強くし、パネル展示以外にもステージでの発表に少し時間を頂くなどの工夫により、さらに理解を深める。
- ・ 他イベントとの連動企画であるため、しっかりとした時間が確保できない場合は伝えたい情報を冊子やチラシにまとめて配布し、イベント後に見てもらうことが有効であると思われる。

①地域の市町村で行われている防災イベントを調査する

②防災イベントと連動できないか主催者と調整する

③想定参加者の属性を調べ、パネル内容を検討する

④パネルの作成を行う

⑤パネル以外に可能な手法を調整する

※イベントの主だった内容がステージでの発表の場合は、ステージで内容を紹介する時間をもらえないか調整する

⑥主催イベントの開催情報をHPに掲載する

⑦配布資料の検討を行う

⑧会場確認を行い、パネルの見せ方を工夫する

⑨アンケートの作成

⑩パネル展開催

※パネル見学者にアンケートを行い、アンケート回答者にはおはなしマップの提供などを行う

⑪毎年恒例のイベントとしての開催の可能性を探る